

函館市役所労働組合連合会との交渉の概要

- 交渉日時 平成24年7月30日（月）18:00～18:45
- 交渉場所 市役所8階第2会議室
- 出席者 当局側 中林副市長，企業局長，病院局長，他 計10名
組合側 長谷川中央執行委員長，他 計8名

交渉項目	給与制度の見直しについて（第2回目）
交渉要旨	<p>財政課長から財政の現状および収支見直しについて説明。</p> <p>（組合）</p> <p>6月7日の第1回目の交渉では，平成23年度決算や交付税が未確定であったため，財政状況が不透明な中での交渉だった。予算と決算というタイミングの違いはあると思うが，資料を持ち帰り，組合としても財政状況を分析・研究したい。</p> <p>厳しい財政状況ということは共通認識としてあるが，今後人勧も退職手当もどうなるかわからないうえ，市税の減少，扶助費の増加や人口減少が進んでいくと思われる。国勢調査の度に交付税が減り，その度に同様の議論をしないといけなくなるのではないか。</p> <p>財政構造の根本論を整理しなくてはならないと考えている。なんでも人件費とはならないし，事業の見直しも必要である。また，基金の状況も気になる場所である。今後，事務折衝の場で引き続き議論させていただきたい。</p> <p>（当局）</p> <p>確かに，今後の国の動向についてはわからない。しかしながら，財政課長から説明があったように，財政の状況は厳しく，プラスの要素はない。財政運営も中長期的な視点で見なくてはいけない。決算ベースでの行革効果等については，事務折衝等の時に説明できればと思っており，組合と財政状況について共通認識を持てるようにしていきたい。</p> <p>（組合）</p> <p>前回の交渉での要求であった財政状況の説明を聞かせてもらったが，内容については，内部で検討したい。また，わからないところは財政課長にお聞きしたいと思っている。</p>

	<p>しかしながら、お互い財政状況が厳しいことは認識しながらも、それをどう乗り越えていこうとしているのか、互いに違うことを考えているのではないかと思う。手法の違いを感じている。</p> <p>退職手当の状況も含め、職員の生活も厳しさを増している。この間の給与制度の見直しや人勧、さらには、給与削減で職員の年収ベースも下がってきており、その辺も考慮していただきたいと思う。</p> <p>今後も、事務折衝を通して、互いに議論していきたい。</p> <p>(当局)</p> <p>厳しい財政状況については互いに認識できたと思っている。</p> <p>人口や市税の減少、財政力指数の低下で、市が自由に使うことのできるお金が減っている。その中でどうやっていくか。</p> <p>現在、市長や両副市長で内部仕分けを行っており、結果を受けて、各部がどのように考えるのかが大切だと思う。一つ一つの小さな見直しが、積み重なって大きな財源となる。業務の中には、惰性で行っているものもあると思う。業務をしっかりと検証し、見直していきたいと思っているので協力を願いたい。</p>
交渉結果	(交渉継続)
備考	

(総務部行政改革課 平成24年7月31日現在)